相互利用の経済性について

(1)

特集：医学図書館協力活動

今村 慶之助*

I はじめに

編集部より標記について書けと言われたとき、これはえらく大きな問題を持ってきてくれたのだと驚いたが、この問題は協会加盟の各館が当面するもっとも大きな問題の一つであり、何か書けば役に立ちそうだと考え直し、非力だが敢て取り組むことにした。この問題について私の視点は、

①相互利用に依存しなければならない情報とは何か。

②相互利用によれば計算に合うのか。

③つりあいのとれた相互利用とは何か。

ということであった。①については量の分析 ②についてはお金の問題 ③についてはシステムとか方法についてであって、この三者が明らかになってはじめて相互利用の経済性の問題を解く鍵を手にし得るであろうと考えた次第である。

そこで本稿では割当てられた紙面に限りがあるので第1の相互利用に依存しなければならない情報の量ということの1部について調べることにした。

II 医学情報の絶対量について

ことばの定義から述べると、ここで言う絶対量とは「利用の頻度、有無にかかわらずその対象になり得る医学情報の総て」である。有効情報はこの中の一部である。

情報量増大の加速度が強まるにしたがい、それぞれの図書館では、利用者の求める一次文献のうち自前でまかなうことのできる比率

は漸次逓減の傾向にあることが問題になっている。つまり他の図書館に依存する傾向が強くなっているということである。その防止策のために各館では雑誌の受入誌数を増加するとか単行書の購入量を多くすることによって一次文献の所蔵量を増しており、その量も顕著なものがあることは協会の統計を見ても明らかであるが、それにもかかわらず自前でまかなうことのできる比率の逓減の傾向は強まっている。つまり受入可能な量よりも情報の増加量(率)の方が大きいということが言える。したがってこの問題は個々の図書館で対処し得ないまでに大きくなっているので必然的に共同化への志向が芽生え、具体的には今次札幌総会にて提案された「雑誌の地区別購入」のプランとなって現われたと見てもよい。これはこの問題解決のために現在程度の医学図書館の規模、予算の規模をとる限りにおいては共同の力が不可欠であることを示すものであり、文献相互利用の必要性は図書館間でそれぞれ現在手持ちの文献を単に交換利用するということよりはむしろ共同の力によって情報量を確保し、それを共同で利用する

(表I) 雑誌の数

World list of scientific periodicals

収載年間	収載誌数
1900~1950	24029
1951~1960	59961
学術雑誌総合目録 自然科学編	
収載年間	収載誌数
1955	14433
1963	24353

* Keinosuke IMAMURA 東大医学図書館

までに至らなければ前述の自前でまかなうことのできる情報量逓減の傾向を補うまでに至らないということである。

このような文献量の増大にもかかわらず国内で求められる文献量の率はむしろ逓減の傾向にあることがわかる。これは医学研究のために必要な情報は関連領域が拡大の方向へ進んでいるにもかかわらず、情報の絶対量は減少の方向へ後退していることを示している。

この逓減の傾向については多くの統計類があるので重複して述べないが医学研究のために、更には世界的な水準を維持するために重大な障害となっているので共同の力、特に国家的な力の必要を痛感するのである。

III 国内情報の絶対量について

各館に受入れられている文献を相互に利用することは、外国に依頼するよりも自然であり、現時点では容易且経済的にみても有利であることは自明である。したがって我々は国内の総合目録を手にして文献の所在を探索するのが相互利用の第一歩である。では国内で利用し得る情報の絶対量はどのくらいあるのか。

A. Current Journal について

現行医学雑誌所在目録 1965 年版によるとこの目録の編集の初め加盟館 47 館で受入れられている雑誌の種類は

和文雑誌 1169 誌
欧文雑誌 2852 誌

である。この和欧誌合計 4021 誌×47 館ということになれば国内での相互利用の対象は 0 となる。多数の中には利用頻度の高いものに 47 館全部が受入れている雑誌もあるが 47 館中 1 館しか受入れていない雑誌もある。それを表Ⅱで調べた。

これによると 47 館で受入れられている雑誌の量は

和文雑誌 14646 誌 (1 館平均 312 誌)
欧文雑誌 24843 誌 (" 528 誌)

である。この量は非常に沢山の雑誌が受入れられているように見えるけれども、それぞれの重複量と重複率は

和文雑誌 12.4% 26.3%
欧文雑誌 8.4% 17.8%

である。これは欧文雑誌では 2852 誌 47 館で受入れているけれども同一誌は平均 8.4 誌しか受入れられていないのであって、絶対量の 17.8% しか満足されないことになる。つまり 47 館中相互利用に依存しなければならない量は

和文雑誌 $47 - 12.4 = 34.6$ 館 73.7%
欧文雑誌 $47 - 8.7 = 38.3$ 館 82.2%

である。

これは 47 館中欧文雑誌にては同一誌平均 34.6 館が相互利用に依存しなければならないことを示すのであって、相互利用に依存しなければならない情報の絶対量は 82.2% であることがわかる。

このように現行雑誌の和文雑誌にては 73.7%、欧文雑誌にては 82.2% の他館に依存しなければならない情報の絶対量が存在するのだということを 1 つには図書館の予算を増すために、1 つには相互利用の業務を理解してもらうために図書館に影響ある周辺の方々に十分に理解してもらう必要がある。

B. 雑誌の絶対量について

医学雑誌総合目録 第 4 版に収録されている雑誌は

和文雑誌 2419 誌
欧文雑誌 2875 誌

である。これの 48 館で所蔵されている雑誌数の総和は

和文雑誌 21,152 誌 (1 館平均 440 誌)
欧文雑誌 33,978 誌 (" 707 誌)

である。これの一誌平均の重複量と重複率は

和文雑誌 8.7 誌 17.8%
欧文雑誌 11.7 誌 24.5%

である。このようにタイトルのみに限って調べれば和文雑誌において 1 誌平均 8.7 誌国内に所蔵されており、その比率は 17.8% だから相互利用の対象は

100-17.8%=82.2%

であると言える。これは単純に誌数に限って調べただけのことであるが、この 8.7 誌は 8.7 館（多分各館共 Single Copy の所蔵であろうという想定から）が創刊号から現在（調査時）まで完全に揃えているわけではなく、全く千差万別である。であるとしたら和文誌の 8.7 誌（17.8%）、欧文誌の 11.7 誌（24.5%）は更に大幅に下まわる数字になるであろう。例を協会の調査にとると利用頻度の最も多い J. B. C. と Nature が創刊号より現在まで各館に所蔵されている量を医学雑誌総合目録 第 4 版によって調べると両者の重複量と重複率は

JBC 28.9 59%

Nature 14.9 31.9%

最も利用度の高い両誌においても 50% 程度又はそれ以下であり、J. B. C. については最も所蔵率の高い雑誌であるから、相互利用に依存しなければならない絶対量は 50% 以上ということになる。したがって前述の雑誌の絶対量に対する相互利用に依存しなければならない絶対量の比率

和文誌 $100 - \frac{17.8}{2} = 91.1\%$

欧文誌 $100 - \frac{24.5}{2} = 87.75\%$

という仮説がなりたつ。次回に有効情報量との対比を述べたい。（つづく）

〔説明〕表の見方：和文誌では 47 館で受入られている雑誌数は 22 誌であり、1 館しか受入れられていない雑誌は 349 誌であるとする。

調査資料：

現行医学雑誌所在目録 1965 年版

（表 II-A）現行医学雑誌の重複量

和 文 誌		欧 文 誌	
受入館数	雑誌数	受入館数	雑誌数
47	22	47	27
46	11	46	32
45	20	45	26
44	25	44	17
43	15	43	12
42	19	42	19
41	16	41	9
40	11	40	15
39	8	39	17
38	13	38	18
37	13	37	14
36	14	36	15
35	7	35	9
34	5	34	9
33	13	33	6
32	11	32	8
31	8	31	17
30	5	30	7
29	6	29	14
28	9	28	13
27	5	27	10
26	4	26	19
25	9	25	15
24	14	24	11
23	8	23	13
22	14	22	20
21	9	21	19
20	5	20	18
19	9	19	24
18	16	18	31
17	7	17	29
16	10	16	19
15	10	15	23
14	9	14	34
13	15	13	29
12	8	12	37
11	20	11	43
10	14	10	36
9	15	9	54
8	31	8	57
7	17	7	81
6	27	6	72
5	42	5	129
4	53	4	147
3	83	3	221
2	123	2	381
1	349	1	946
1169		2852	

(表 II-B) 現行医学雑誌の絶対量

〔説明〕表 II-A をグラフ化したものである。
Aは欧文誌, Bは和文誌の相互利用に依存する量。
A', B'はそれぞれの館で所蔵する量。

(表 III) Nature と JBC の所蔵量

調査資料: 医学雑誌総合目録 欧文雑誌編 第4版

〔説明〕A は JBC,
Bは Nature の相互利用に依存しなければならない絶対量。
A', B'はそれぞれの館の所蔵量。